

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立120年の歴史を有する本校は、平成29年に大阪府立初の併設型中高一貫校として新たな一步を踏み出した。中高一貫教育を通して生徒・保護者・地域の期待に応える進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）の育成を使命とするとともに、これまで培ってきた伝統にさらなる磨きをかけ、次代へ繋ぐ。

＜中高一貫校としてめざす学校像＞

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

＜中高一貫教育を通して育みたい力＞

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては、確かな学力を育成すべく観点別評価を踏まえた授業・評価サイクルづくりを念頭に授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。
 - ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。
 - イ 「授業改革推進委員会」を核として、観点別評価を踏まえた授業改善に組織的かつ恒常的に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。
 - ウ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。
 - エ 学習時間を記録する生徒手帳の機能を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。
 - オ 「1人1台端末」の効果的活用を進め、その情報共有を図る校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。
- ※（生徒対象）学校教育自己診断における授業満足度（R01：74%、R02：76%、R03：84%）を向上させ、令和6年度に85%をめざす。

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

- (1) スーパーサイエンスハイスクールとして、「探究」と「貢献」をキーワードに中高一貫した教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成し、進学実績の向上を図る。
 - ア 科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携による先進的な理数系教育を実践し、社会への貢献意識及び自己実現意識を育み、世界とつながり活躍できる科学的な人材を育成する。
 - イ・中高一貫した進路指導実現のため、進路指導部及び学力向上戦略委員会が中心となって、様々な取組みの具現化を図る。
 - ・国公立大学進学者の合格者数（現役合格 R01：45名、R02：54名、R03：49名）について現役では50名以上を維持する。同時に自己実現の志を高く維持させ、難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増を図る。
 - ・国際社会における貢献意識の醸成もねらいとして、海外大学への進学ガイダンスを充実させる。
- ※（生徒対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度（R01：84%、R02：86%、R03：91%）90%以上を維持する。
また、（保護者対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度（R01：80%、R02：74%、R03：74%）を向上させ、令和6年度に85%をめざす。

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

- (1) 充実した学校生活こそが「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。
 - ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。また、中高一貫した部活動指導も図る。
 - イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。
 - ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。
 - エ 通級指導教室の運営開始に向け校内組織を構築し、生徒が参加しやすい環境を整える。また、生徒・保護者への周知に努める。
- ※（生徒対象）学校教育自己診断の学校行事満足度（R01：95%、R02：94%、R03：95%）令和6年度も90%以上を維持する。
- (2) 異文化交流や共同研究による国際教育を中高一貫して推進する。
 - ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等）を継続し、充実を図る。
 - イ ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流を継続するとともに、海外修学旅行や海外研修などを通じて新規姉妹校の開拓を図る。
・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。
 - ウ 大阪府の「スマートスクール推進事業」のモデル校として、海外の学校との交流（アメリカ、中国、フィリピン、ネパール等）を継続・深化させる。
- ※（生徒対象）学校教育自己診断結果で国際交流等についての評価（R01：91%、R02：86%、R03：86%）令和6年度も90%以上を維持する。

4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携

- (1) 中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を明確にし、6年一貫した教育活動の充実を図る。
 - ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を策定すべく、それぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。
 - イ 全国の中高一貫校やSSH高などの教育先進校を視察し、各校の取組みに学び、SSHⅡ期め指定をめざす。中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。
 - ウ 中高一貫校として、またSSH指定校として相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。
- ※（保護者対象）学校教育自己診断における情報発信の満足度（R01：83%、R02：93%、R03：93%）令和6年度も90%以上を維持向上させる。
- (2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。
 - ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。
 - イ 安全・安心な学校づくりに努める。
 - ウ 地域貢献を推進する。
 - エ 富田林市が「SDGs未来都市」に選定されたことに伴い、学校として取り組めることを追求する。
- ※学校教育自己診断における学校満足度（生徒対象 R01：92%、R02：93%、R03：94% / 保護者対象 R01：93%、R02：90%、R03：93%）について令和6年度も90%以上を維持する。

5 働き方改革の推進

- (1) 業務の効率化を図り、職員の心身の健康を維持・増進する。
 - ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、またノー残業デーを徹底するなどして在校時間を定められた上限の範囲内にする。
 - イ 全般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材を活用するなどアウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒の全質問項目に対する肯定的評価の割合は88.3となり、昨年度の88.2を超えて過去最高となった。学校の友人関係や教職員との関係に満足している生徒の割合はそれぞれ96.2、93.6と共に過去最高となり、また「富田林高校へ進学してよかった」と肯定的に捉える生徒も93.8と引き続き高い割合となるなど、コロナ禍における活動制限も次第に緩和される中で、生徒が学校生活を楽しく過ごしている様子が窺える。</p> <p>授業についての評価は、「わかりやすいか」「内容を深く考えさせる授業が多いか」という2つの観点においてそれぞれ85.2、87.5と過去最高となった。また、『授業は興味深く、力がつく』と子どもは言っている」という保護者への質問項目も今年度は73.0となり、この質問項目が新たに加わった2014年度の58.6という数値からも大幅に上昇した。</p> <p>一方、今年度から新たな質問項目として加わった「一人一台端末の活用」については81.2にとどまる結果となった。この項目への生徒評価は学年間でのばらつきも大きく、今後は端末の効果的な活用に向けて全校的な取組みを一層進めていく必要がある。</p> <p>進路指導に関する質問項目について、「進路達成に向けた学習支援」及び「進路情報の充実度」という2観点における生徒の肯定的評価はそれぞれ88.2、94.1とこちらも過去最高となり、本校の進路指導について信頼が得られている。</p> <p>授業参観や保護者説明会の充実度について保護者に聞いたところ、肯定的評価はそれぞれ88.0、91.0とコロナ前の水準まで回復傾向にある。「さくら連絡網」やブログでの情報発信などについての肯定的評価も93.1と高い数値となり、生徒の日頃の様子や様々な情報を提供する機会を今後も増やしていく。</p> <p>また、2020年度以降活動が制限されていた学校行事や部活動についても、感染対策をしながら実施してきた結果、学校行事に対する保護者の肯定的評価は91.7と、こちらもコロナ前と同様9割を超えるまでに回復してきている。一方で、国際交流についての評価は生徒で84.9、保護者で75.0と依然として相対的に低い数値である。国際交流に期待して入学した生徒も多く、この点は学校の課題として認識し、コロナの状況を見つつ今後の活動計画に生かしていく。</p>	<p>第1回（令和4年6月23日（木））</p> <ul style="list-style-type: none"> ○フリースクール（トゥルーカラーズ）について <ul style="list-style-type: none"> ・学校に入ることができない生徒の居場所、学びの場所になっている。 ・先生方は様子を見に行くことがあるのか？（質問） <ul style="list-style-type: none"> ←定期的に学校とフリースクールで会議を持ち、情報共有をしている。 ○中学制服検討に係る進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> ・先生方は子供たちのことを考えて、いろいろな観点から検討してくれている。 ○富田林中高の教育活動全般について <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールとして、地域と学校が一緒に育っていくことが大切である。 ・子供たちの自己肯定感を育てる手伝いができればいい。 ・先生方の苦勞も分かるので、無理をせず休養を取りながら勤務してもらいたい。 <p>※本年度学校経営計画に「通級指導教室」「SSHⅡ期指定」「スクール・ミッション作成」を追記することを承認。</p> <p>※フリースクールとの提携（出欠・成績・考査監督等の扱い）を継続することを承認。</p> <p>第2回（令和4年11月30日（水））</p> <ul style="list-style-type: none"> ○富田林高校のスクール・ミッションならびにスクール・ポリシーについて <ul style="list-style-type: none"> ・内容はこれでよいと思う。 ・文科省の内容に則って、さらにその上をめざそうとしている。 ・緻密でこまやか、どんなふうに教師が進めようとしているか分かる。 ・ミッション自体はざっくりとしたものでよい。 ・ミッションは、何のためなのか？形だけ文科省の要請に応えるのではない ・カリキュラムで具現化すべき マッピングが重要 ○中学の新しい制服の導入について <ul style="list-style-type: none"> ・当事者の子どもに対して学校側がどのようにアプローチしていくのか ・中学高校両方で考えていく、意識してくのが大切である。 ○コミュニティ・スクール <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの取り組みがどのように生徒に選んでいくのか、成果の検証が必要である。（生徒の側から見よう。） ○クラブ活動の地域以降について <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行は、国の政策をしっかりと確認。働き方改革の一環。内閣府の資料を要確認。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・SSH2期申請進捗状況 ・学校と企業コラボのスマホケースについて <p>第3回（令和5年2月21日（火））</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度の学校関係者評価について <ul style="list-style-type: none"> ・中高とも評価が非常に高く、他校ではなかなか見られない。 ・「探究」は生徒が自分を見つめ直す良い取り組みである。 ・先生方の指導が国公立大学進学に傾いている感じがある。 ・目標として「〇〇〇大学〇〇人以上」は必要だが、大学が求めているのは目的意識を持った学生である。 ・部活動は、好きなことを見つけ、頑張る力を身につけるためのキャリア教育である。 ・部活動は大事な社会教育の一環だが、先生方が教科教育に専念できるよう、教員の増員を望む。 ・高校教員が中学生を教え、中学教員が高校生を教えるのは、負担ではあるがメリットは大きいだろう。 <p>第4回（令和5年3月4日（土））</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度の学校経営計画の評価案と来年度の学校経営計画を承認する。 ○同日に実施した地域フォーラムについて <ul style="list-style-type: none"> ・ここ10年くらいで生徒の社会性が大きく向上した ・生徒が学校文化を作って伝承しているようなイメージ（先生が異動しても生徒間で継承） ・お客さんも多く、親子連れも多数見られた。オープンキャンパス的な要素が強い。 ・普通科の中高6年間でどう教育していくかのモデルができつつある。 ・生徒から地域フォーラム取材班などを作って、どんどん発信していくべき ・質疑応答のレベルは上げていく必要はある。（企業とのOJTを積んでレベル上げしては？） ・大阪の普通科の探究・課題研究に対するエネルギーは低い。 ・他府県は農業系や水産系などの学校との横のつながりを大切にしている。大阪は偏差値での縦の並びが強く、もっと横のつながりを強化すべき。 ○学校運営協議会を振り返って <ul style="list-style-type: none"> ・制服の導入についてもここでの意見を踏まえて、滞りなく実施できた。

- ・今後、全国の中高一貫校との交流が必要
→奈良女子附属中高、広島中高などリベラルな雰囲気の学校と交流してほしい。
- ・先生方の振舞にも好意が持てた。
- ・これからも子ども達が社会とつながって、よい学校を作してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)</p> <p>ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ「授業改革推進委員会」を核として、観点別評価を踏まえた授業改善に組織的かつ恒常的に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。</p> <p>ウ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。</p> <p>エ 学習時間を記録する生徒手帳の機能を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。</p> <p>オ 「1人1台端末」の効果的活用を進め、その情報共有を図る校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・45分×7限授業（高校全学年33単位）により学校生活をデザインするとともに、新たな教育課程を踏まえ、新学習指導要領の理解を深める。</p> <p>イ・年度当初に教科ごとにアクティブラーニングの取組を検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。</p> <p>・定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。</p> <p>・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。</p> <p>ウ・各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究など他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する。</p> <p>エ 生徒手帳に記録する学習時間を毎朝のSHRで確認し、「進路だより」等を通じて啓発することによって家庭学習習慣の定着と、学習時間の上昇を図る。</p> <p>オ・オンライン学習研究委員会を中心に、授業における端末の具体的実践について情報共有を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒対象) 学校教育自己診断における授業満足度80%以上を維持向上させる。[84%]</p> <p>イ・(教員対象) 学校教育自己診断『『主体的・対話的で深い学び』(アクティブラーニング)を意識して授業をしている』80%以上をめざす。[77%]</p> <p>・(生徒対象) 学校教育自己診断「深く考えさせる授業が多い」80%以上を維持向上させる。[86%]</p> <p>・考査問題に、思考力・判断力等を問うものを半数以上の教科で含めるようにする。</p> <p>・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員による授業改善シートが作成されたか。[100%]</p> <p>ウ・(教員対象) 学校教育自己診断「授業方法や生徒の状況について話し合う機会が多い」90%以上をめざす。[85%]</p> <p>エ (生徒対象) 学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均75%以上をめざす。[74%]</p> <p>オ・(生徒対象) 学校教育自己診断「ICT機器の使用は授業の内容を理解するうえで効果的」95%以上を維持する。[97%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度への肯定率は85%と過去最高を更新した。授業力向上の取組みが結果に結び付いた。(○)</p> <p>イ ・教員向け学校教育自己診断結果における『『主体的・対話的で深い学び』を意識して授業をしている』への肯定率は94%と大きく向上した。(◎)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「深く考えさせる授業が多い」への肯定率は88%と過去最高。(○)</p> <p>・考査問題に思考力・判断力等を問うものを入れた教科は全教科であった。(○)</p> <p>・授業改善シートの提出率は第1回・第2回とも100%であった。(○)</p> <p>ウ ・教員向け学校教育自己診断「授業方法や生徒の状況について話し合う機会が多い」への肯定率は91%と過去最高。(○)</p> <p>エ ・生徒向け学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均の肯定率は71%と昨年より低下。特に2年生が大きく低下しており、進路・学年で対策を講じる。(△)</p> <p>オ ・生徒向け学校教育自己診断「ICT機器の使用は授業の内容を理解するうえで効果的」への肯定率は94%と高いが目標にあと一步。(△)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断で新たな質問項目「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」を追加。肯定率は81%であった。次年度以降、評価指標に加えていく。</p>

府立富田林高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 高い志を高く、進路実現をめざす取組み</p>	<p>(1) ア 科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のため、進路指導部及び学力向上戦略委員会が中心となって、様々な取組みの具現化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学進学者の現役合格者数50名以上を維持し、同時に自己実現の志を高く維持させ、難関大学(京都、大阪、神戸等)への受験者増を図る。 ・国際社会における貢献意識の醸成もねらいとして、海外大学への進学ガイダンスを充実させる。 	<p>(1) ア・本校のSSH(実践型)の目標(課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発)を具現化するプログラムを実行し、その成果を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSHとして、1年次の「探究Ⅰ」において、地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携や海外との交流を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には中学とともに学年での発表や地域フォーラムを開催する。同様に2年次の「探究Ⅱ」においても活動を深化発展させる。 <p>イ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を活用し、全生徒に将来の目標設定を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者への進学説明会を適宜実施する。特に、拡大しつつある「学校推薦型選抜」「総合型選抜」についての情報提供を充実させる。 ・生徒のニーズを捉えた進学講習を充実させる。 ・外部模擬試験の結果などの振り返りを、データに基づき効果的に実施する。 ・校内において海外進学についてのガイダンスを実施する。また、海外進学についての事業や説明会について、適宜情報提供を行う。 	<p>(1) ア・(生徒対象)学校教育自己診断『探究Ⅰ・Ⅱ』などの学習活動によって、深く考える力等が身につく」80%以上を維持向上させる。[84%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(教員対象)学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力等が身についた」90%以上をめざす。[84%] ・(教員対象)学校教育自己診断「SSHの取組みは進路実現に役立つ」85%以上をめざす。[83%] ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)を巻き込んだ地域フォーラムを20団体以上の参加を得て開催できたか。また、府外の学校からも参加者を20名以上集めることができたか。 [19団体、0名] <p>イ・生徒の「見える化システム」の利用率100%を維持する。[100%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種説明会の実施や、「進路だより」の発行などを通じて、進路についての情報提供を充実させ、学校教育自己診断における進路指導の満足度について、生徒対象は90%以上を維持向上させ[91%]、保護者対象は80%以上をめざす。[74%] ・(生徒対象)学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」80%以上を維持向上させる。[87%] ・模擬試験結果をデータに基づき振り返る取り組みを2回以上実施する。 [2回] ・海外進学に関して説明会を1回以上実施する。 [－] 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断『探究Ⅰ・Ⅱ』などの学習活動によって、深く考える力等が身につく」への肯定率は83%であった。探究活動により身につく力は将来必ず役に立つ。今後も一層充実していきたい。(○) ・教員向け学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力等が身についた」への肯定率は87%と昨年比3%上昇したが目標には届かず。生徒に主体的に考えさせる指導をめざす。(△) ・教員向け学校教育自己診断「SSHの取組みは進路実現に役立つ」への肯定率は96%と目標を大きく上回った。(◎) ・地域フォーラムへの団体参加20団体、府外の参加者1名。(○)(コロナの状況を鑑み府外への案内は自粛したため、府外参加者数は評価に含めず) SSHの地域交流事業指定を受け、今年度は規模を拡大して行った。南河内の科学教育のセンター的役割を果たすべく、今後も地域の大学、企業、小中高と連携を続けていく。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「見える化システム」の利用率100%(100%) (○) ・学校教育自己診断における進路指導の満足度への肯定率の生徒向け91%(○)、保護者向け79%(△)時機を得た進路指導により、生徒のモチベーションを維持させている。保護者向けは5%向上したものの目標に届かず。 ・生徒向け学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」への肯定率88%(○)本校教員による多様なニーズに応える講習のほか、外部講師によるハイレベル講習を実施した。 ・2回実施した。(○) ・新型コロナの影響で実施できず。(△)
---	--	--	--	--

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) ア 学校教育目標で設定した<育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。また、中高一貫した部活動指導も図る。</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) ア 国際交流(アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等)を継続し、充実を図る。</p> <p>イ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流を継続するとともに、海外修学旅行や海外研修などを通じて新規姉妹校の開拓を図る。 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。</p> <p>ウ 大阪府の「スマートスクール推進事業」のモデル校として、海外の学校との交流(アメリカ、中国、フィリピン、ネパール等)を継続・深化させる。</p>	<p>(1) ア・体育祭や文化祭等をはじめ、学校行事全般において、グローバルリーダーの資質を涵養すべく、生徒の自主性を引き出す行事運営を行う。 ・中高合同の部活動指導を、できる範囲で取り組む。</p> <p>イ・これまで実施してきた研修内容を踏まえ、新たな研修計画を立案する。 ・挨拶運動、遅刻指導に取り組み、生活マナーを向上させる。</p> <p>ウ 中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>(2) ア 新型コロナ禍で実際に行き来できない中、ICTを活用しながら様々な国の生徒との交流を図る。</p> <p>イ・コロナ禍終焉を見越して、中高6年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にしておく。また、海外研修が実施できないことを前提に、国内における代替企画を立案、実施する。</p> <p>ウ スマートスクール「モデル校」指定を受け、海外の高校生等とテレビ会議システムを活用し、共同研究等に取り組む。</p>	<p>(1) ア・(生徒対象)学校教育自己診断結果における行事満足度 90%以上を維持する。[95%] ・部活動加入率 90%以上を維持する。[89%]</p> <p>イ・時代のニーズに合致した人権研修を1回以上実施する。[1回] ・(生徒対象)学校教育自己診断結果における生活指導に対する理解 85%以上をめざす。[84%]</p> <p>ウ (生徒対象)学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度 90%以上を維持向上させる。[93%]</p> <p>(2) ア 今後を見据え、海外の2校以上の学校と交流を実現させる。[3校]</p> <p>イ・ねらいを明確にした海外研修プランを検討するとともに、国内での代替企画を立案し、参加者20名以上で実施する。[一] ・(生徒対象)学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」90%以上をめざす。[86%]</p> <p>ウ 海外の学校とのテレビ会議システムを活用した共同研究等を、生徒30名以上が関与する形で実施する。[40名]</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断結果における行事満足度への肯定率は94%(○)文化祭は久々に外来者を招き活気があった。体育祭は屋内実施。 ・部活動の加入率 90% (○)</p> <p>イ ・生徒向け人権研修1年:2回 2年:3回 3年:2回それぞれ実施した。(○) (参考)教職員向け人権研修 2回実施 ・生徒向け学校教育自己診断結果における生活指導への肯定率は84%(△)6年連続で肯定率は上がっているが、一層丁寧な指導が必要。</p> <p>ウ ・生徒向け学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度への肯定率は94%(○)100%をめざす。</p> <p>(2) ア ・海外との交流実施3校(○) フィリピン・ネパール・フランス</p> <p>イ ・国内での国際交流代替事業参加者は15名。夏期英語研修はコロナのため中止となり、冬期再度実施したが人数は目標を下回った。(△) ・生徒向け学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」への肯定率は85%(△)今年度も海外修学旅行や海外研修はコロナの影響により実施できず。代替の事業も行ったが、やはり海外へ行けないことで生徒は残念に感じている。次年度はコロナの状況にもよるが、何らかの形で海外研修は実施したい。</p> <p>ウ ・フィリピン、ネパールならびにフランスの生徒とテレビ会議を実施。参加者は延べ40名(○)</p>
--	--	--	---	---

<p>4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を策定すべく、それぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。</p>	<p>(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 ・全校的に「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」の策定に取り組み、共通認識を図る。</p>	<p>(1) ア・(教員対象) 学校教育自己診断における分掌等の機能や中高の協働性についての3項目の評価平均50%以上をめざす。 [42%] ・「スクール・ミッション」等の策定について、8月までに着手する。</p>	<p>(1) ア ・教員向け学校教育自己診断における分掌等の機能や中高の協働性についての3項目の評価平均50%以上をめざすについて、肯定率は47% (△) 特に中学との情報共有や協働性について十分に取り組めていないと感じている教員が多い。効果的かつ効率的な中高の情報共有、協働の場を設定していく。 ・スクール・ミッションについては、学校経営支援Gの育成支援事業の支援を受け、策定した。(○)</p>
	<p>イ 全国の中高一貫校やSSH高における教育先進校を視察するなど、各校の取組みに学び、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。</p>	<p>イ 全国の中高やSSH校を視察してその取組みを学び、中高一貫教育を推進させるためのカリキュラムや組織体制を充実させる。</p>	<p>イ 中高一貫校やSSH校を視察し、先進校情報を収集する。 [3校視察]</p>	<p>イ ・六甲アイランド高校、西京中学校高等学校、並木中等教育学校の3校を視察した。(○)</p>
	<p>ウ 中高一貫校として、またSSH指定校として相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。</p>	<p>ウ 前年度に全面改訂した学校 Web ページを随時改修し、各組織においては定期的な情報更新に努める。</p>	<p>ウ (保護者向け) 学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%以上を維持する。[93%]</p>	<p>ウ ・保護者向け学校教育自己診断における情報発信の満足度への肯定率は93% (○) さくら連絡網での情報配信、HP 更新頻度の向上により評価いただいた。</p>
	<p>(2) ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。 イ 安全・安心な学校づくりに努める。 ウ 地域貢献を推進する。 エ 富田林市が「SDGs 未来都市」に選定されたことに伴い、学校として取り組めることを追求する。</p>	<p>(2) ア・学校運営協議会を通して、学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるよう努める。 ・「めざす学校像」の共有化を図るとともに、コミュニティ・スクールについての情報収集を継続する。 イ 教育相談委員会の中高連携を強化し、全教職員での共有化を図る。 ウ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を踏まえた「探究I」の成果発表会である地域フォーラムを開催する。 エ 生徒会等が中心となり、富田林市が主催する「若者会議」への参画を進める。</p>	<p>(2) ア・学校教育自己診断における学校満足度について、生徒対象[94%]、保護者対象[93%]ともに90%以上を維持する。 ・地域フォーラムやオープンスクール、地域公開授業など、地域や保護者に対して学校を開く機会を5回以上作る。[5回] イ (生徒対象) 学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」70%をめざす。 [76%] ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動をそれぞれ1回以上実施する。 [1回] ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を踏まえた「探究I」の成果発表会である地域フォーラムを、前年度規模以上で開催できたか。 [19団体参加] エ 市政運営への関与を深めるため「若者会議」に複数以上で参加する。 [2名]</p>	<p>(2) ア ・学校教育自己診断における学校満足度について、生徒向け94%、保護者向け92% (○) ・地域や保護者に対して学校を開く機会8回 (○) コロナに対する制限緩和により、回数を増やすことができた。 イ ・生徒向け学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」83% (◎) 担任をはじめ、教員が生徒に寄り添う姿勢ができてきている。 ウ ・小学校へ出かけて「挨拶運動」を3回実施した。(○) ・地域フォーラムの参加団体数20団体 (○) エ ・富田林市主催若者会議への参加者2名。(○) さらに、生徒会執行部(4名)が富田林市長との交流会を実施</p>

府立富田林高等学校

5 働き方改革の推進	<p>(1) ア「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、またノー残業デーを徹底し、時間外勤務を縮減する。</p> <p>イ 全般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材を活用するなどアウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。</p>	<p>(1) ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」の徹底を図り、本校のノー残業デーである金曜日の呼び掛けを強化し定時退勤を促す。また、月毎の時間外勤務の総時間を職員にフィードバックして働き方見直しへの契機を作り、時間外在校時間が上限（45時間／月）を超えないようにする。</p> <p>イ・校務の見直しを行い、ルーティン化している業務の廃止もしくは効率化を進め、軽減を図る。</p> <p>・教育活動において民間の教育産業と連携するなど、アウトソーシング化を図る。</p>	<p>(1) ア ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務（令和3年度 48時間 16分）を1割削減する。</p> <p>イ・校務の見直しを図り、二つ以上の業務の廃止をめざす。</p> <p>・進学講習などにおいて、アウトソーシングが図れたか。</p> <p>ア、イとも、(教員対象) 学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度 85%以上を維持向上させる。[85%]</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務（52時間 33分）(△) 一斉退庁日の徹底を呼び掛けたがうまくいかず。中高一貫校ならではの会議、業務が多い。一貫校開校から6年経つが、業務が定着しルーティン化するにはもう少しかかる。次年度は全校一斉退庁日を徹底したい。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃止した業務 朝の自転車登校指導 効率化した業務 学校説明会を全員担当から管理職と総務部のみにした。PTAと相談し、会議回数を減らした。体育祭を屋内実施し教員の負担を軽減した。(○) ハイレベル講習を外部委託し実施。参加者は延べ約200名(○) 教員向け学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度への肯定率85%(○)
---------------	---	--	---	--